

常任委員会決算審査報告

総務文教

常任委員会

総務文教常任委員長

杉本 和彰

総務課

・財政

歳入総額が約60億1千900万円、歳出総額が約56億6千700万円、形式収支が約3億4千万円です。歳入を分析すると町税等の自主財源が21・4%、依存財源が78・6%となりました。

一方歳出では義務的経費43・4%、投資的経費16・4%、その他の経費40・2%となります。合併による県合併特例交付金が5億円あり、残額が1億1千70万円、国庫合併補助金交付額が1億5千万円あり、残額が1億3千450万円です。条例規定の基金残高は、約32億円、地方債は、特別会計を含め

約89億円です。

・消防

防火水槽を6基整備した。約270万円。有明広域行政事務組合負担金約1億4千万円。

・交通安全関係

交通事故発生状況は、件数70件、死者1名、負傷者101名。

・企画室

広報「なごみ」4千300部発行し約480万円。地方バス運行等特別補助事業約2千万円、レンタル住宅処分約2千万円。

税務住民課

・町民税収入率96・7%、不納欠損額49万5千200円、14名。固定資産税収入率83

・6%、不納欠損額92万8千800円、20名。軽自動車税収入率96・3%、不納欠損額7万600円、22名。

・環境衛生係

生ごみ収集機購入補助件数12件、廃棄物の収集運搬費約2千200万円、資源回収事業80万円、河川水質検査料4万6千200円、硝酸性窒素除去器購入補助1件2万7千円。

・国民健康保険 不納欠損額約190万円、19名、保険給付費約8億9千万円、出産育児一時金550万円、17名、葬祭費210万円、105名

・老人保険事業会計医療諸費16億9千万円で99・6%です。

教育委員会

・小学校費

賃金 南小臨時教諭2名、緑小臨時給食賃金等で約

750万円。修繕費 西小

遊具修理約50万円、神尾小

テラス復旧修理約160万円。

児童検診委託約121万円。

給食運搬委託緑分校約50万円。

工事請負費 西小 特別支援学級新設工事約165万円。

中央小プール濾過機取替え工事約540万円。上下水道接続工事約340万円。

・中学校費
工事請負費菊水中床張り替え 約840万円、下水道接続工事約68万円。菊水中 教育用パソコン40台、各種大会車借り上げ 約457万円、三加和 教育用パソコン37台、各種大会借り上げ 約583万円。

・負担金補助及び交付金として
町子供会約25万円、町PTA約15万円 婦人会55万円等。

・公民館費 工事請負費

三加和公民館調理室180万円、分館活動補助金257万円、夏祭り盆踊り大会補助金100万円。

・文化財保護費委託料

田中城公園管理委託料約340万円、豊前街道腹切坂清掃管理約165万円。

肥後古代の森樹木管理約1千180万円。工事請負費田中城災害復旧工事約1千250万円、文化財案内設置工事約170万円十カ所

・保険体育費

負担金及び交付金 金栗マラソン大会補助金320万円、全国大会出場補助金25万円

・体育施設費

需要費約1千万円、消耗品費 光熱水費 修繕費等。

・学校給食センター費

工事請負費約287万円

排水設備工事

奨学金会計

歳入の主なもの、返還金で560万円。18名の方が利用されている。

厚生

常任委員会

厚生常任委員長

坂本 政光

厚生常任委員会の所管事務である、和水町立病院、特別養護老人ホーム、健康福祉課の一般会計・特別会計の決算における審査を担当課ごとに行いました。

はじめに町立病院から

平成18年度和水町立病院事業会計決算において、単年度収支は△224万7千円の赤字となり、累積欠損金が3億6千288万2千円となった。

主な赤字の原因としては、入院・外来患者数の減少によるものであり、入院患者数は△1,051人減少・外来患者数は△97人の減少であった。特に療養病床の患者数は診療報酬改定（在宅、施設入所、療養患者の負担金の増大等）により最大時42人の満床から最少24人まで減少した事が最大要因である。

赤字幅が224万7千円

と小さかったのは、訪問看護ステーション会計を病院会計に吸収したこと、その会計の繰越金4227万円があったからである。実質4千451万7千円の赤字である。

平成23年末には介護療養

型病床の廃止も決定しており、今後療養病床について、県の地域ケア整備計画の動向を見ながら老人保健施設準備病床等への転換時期を模索することになるだろう。

平成20年度決算からは一般会計から第三セクターまでの収支により、その町が黒字か赤字を判断することになっており、病院の赤字について非難が向けられることとなり、赤字解消に向けた抜本的な政策が求められている。

次に特別養護老人ホーム

平成18年度の和水町特別養護老人ホーム事業会計の歳入決算額は5億9千601万1千167円、歳出決算額は4億3千719万3千43円で歳入歳出差引7千240万8千124円の黒字決算となっております。（単年度収支でも855万799円の黒字）

歳入決算額を昨年度と比較しますと、サービス収入の施設介護サービス費収入につきましては、年間延利用者数を比較しますと、17年度が39,646名、1日平均108・6名で、18年度は39,375名、1日平均107・9名であり271名、一日平均0.7名の減となっており2千577万9千565円の減収となりました。歳出につきましては、総務費が主で4億288万1千246円92・1%です。歳出決算額を昨年度と比較しますと、総務費につきましては5千696万2千526円減少しており、こ

れは人件費の微増に対して基金への積立金が6千510万1千978円減少しているからです。

基金積立は2千万円積立で、平成18年度末で特老建設基金が5億1千19万2千268円、特老積立金が2千140万3千955円、合計5億3千159万6千223円となっております。

次に健康福祉課より歳入歳出の説明を求めました。

大きく分けて、①社会福祉費、②児童福祉費、③災害救助費、④衛生費となっております。

小さな項目に分けますと15項目に及んでいます。

まず、福祉係ですけど、敬老表彰式関係で金婚57組、ダイヤモンド婚31組、プラチナ婚1組、米寿91名の表彰が行われました。

介護保険給付につきましては、年間総額12億5千950万円歳出されており1ヶ月の平均額は1億490万円となっております。

介護保険事業会計においては歳入歳出決算上は黒字となっておりますが、第一号保険者の保険の不足分として、財政安定化基金から借り入れ分の償還未済み額があり、引き続き厳しい状況にあります。

今後は地域支援事業の充実と介護サービス適正化に向けた取り組みが重要だと思います。

全般的な決算額において、予算・決算と執行されていると思われる。

厚生常任委員会の意見としては、特に健康づくり推進に努める様要望したところであります。

以上、厚生常任委員会の報告とします。

